

よしまい

2023年 秋号



この実何の実？

目次

公園の風景

- ・姫リンゴ? 1
- ・シギ、一番乗りは? 1
- ・ソーラーバッタ 1
- ・夜のビジターセンター 1

木々と木の実と野鳥の話④ . . . 2

みんなのひろば

ハエトリグモのジロー 2

活動紹介

- ・新クロツラヘラサギの歌 . . . 3
- ・大きなイベント続きます! . . . 3
- ・仲間になりませんか? 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 10509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）



公園の風景

= 姫リンゴ? =



ツバキの実

22年前に観察公園が開園した時、何種類もの木々が植樹されました。ヤブツバキもその中の一種で園内のあちこちに617本が植えられました。表紙のツバキの木はビジターセンター前からヨシ原へ向かう園路入口で大きく育っていますが、赤い大きな実がツバキの実だと気付く方はどのくらいおられるでしょうか。

2~3月に見られる緑色の小さな実は赤みと共に大きさを増し、8月頃には直径4、5cmほどのまん丸でつややかな実を、緑の葉の間にいくつも確認することができます。やがて秋には実がはじけ、中から黒色の種が5、6個ほど顔を出します。この種を絞ってツバキ油が得られます。



殻も芸術的!

ふつう木の実、その年に咲いた花につきますが、ツバキの実、去年咲いた花から今年の実りとなります。その後地面に落ちた種は次世代への芽吹きをもたらすのです。公園では、種はもちろん、種を守っていた殻も乾燥させて子ども達の工作材料として活用しています。

= シギ、一番乗りは =

まだ暑い8月中旬、シギがやって来ました。最初に来たのはアオアシシギとソリアシギ。ロシア・カムチャツカあたりから東南アジア、オーストラリアなどに旅する途中で立ち寄ったもので少しずつ数が増えています。公園のレンジャーは、野鳥の渡りは気温というより日照時間に関係があるのでは?とっていますがはっきりしたことはまだわかっていないようです。ところで、アオアシシギの鳴き声を聞いたことがありますか?とても可愛いので皆さんも公園に来られたら是非聞いてみてください。



アオアシシギとソリアシギ

= ソーラーバッタ =



☆7月30日(日) エネルギア自然観察会☆

中国電力さんと公園との年一回のコラボイベントで、今年で3回目となります。参加の親子連れの皆さんは、午前中、「干潟での生き物観察&ふれあい、何が入っているか楽しみな罫の引き上げ」を楽しみ、お昼は中国電力さん提供のお弁当を頂きました。午後は環境エネルギー教室で「太陽光発電を利用したソーラーバッタ」のプラモデルを仕上げました。太陽光を受けると動き出すとても可愛いバッタに子ども達も大喜びでした。

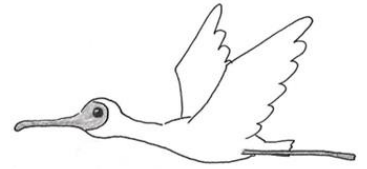
= 夜のビジターセンター =

7月に公園のイベント「ライトトラップで夜の昆虫観察」に参加した時のこと。夕方から公園に入りツバメのねぐら入りを眺めたりしながら日が暮れるのを待っていると、突然ビジターセンターに明かりが灯りました。美しく幻想的で、思わずシャッターを押しました。



活動紹介

= 新クロツラヘラサギの歌、できました！ =



♪ 僕はクロツラヘラサギ ♪

作詞・作曲 落合孝雄 (葦の会会員)

1. 僕は北の国からやってきた クロツラヘラサギ
もっと南の国へ行く仲間（ヤツ）もいるけど 僕は山口湾が大好き
広がる干潟にエビや魚がいっぱいで やさしく見守ってくれる人たちがいるから
2. 僕は顔が黒いから クロツラヘラサギ
くちばしは長くて平たくてエビや魚を捕まえる 僕は山口湾が大好き
広がる干潟にエビや魚がいっぱいで やさしく見守ってくれる人たちがいるから
3. 僕は冷たい風が吹くころやってくる クロツラヘラサギ
北の国は凍ってしまうけどここは暖かいよ 僕は山口湾が大好き
広がる干潟にエビや魚がいっぱいで やさしく見守ってくれる人たちがいるから

メロディーは
フォーク調だよ

= 10月には大きなイベントが続きます！ =

<俳句教室最多選句>

☆10月7（土）8日（日）

ゆめ花マルシェの一面に観察公園と葦の会がブース出展☆

県民活動の魅力発信の場として「きららでキラリ！」をタイトルに山口県の主催で、きらら博記念公園の大芝生広場に県民活動エリアが設けられます。自然観察公園と葦の会も共同ブースで来場の皆様をお迎えします。葦の会はクロツラヘラサギをテーマに企画を立てているところです。皆さんに楽しんで頂けるブース作りに取り組みますので、是非お越し下さい。

かなぶんの樹液かこみて相撲とる

明広

7月

湖渡る風に揺れたる猫じやらし

孝久

8月



☆10月29日（日）ふれあいまつり 開催☆

コロナで控えていた餅つきの再開を計画しています。巣箱作り、パネルシアター、ウォークラリーやゲーム、もちろん焼き芋もありますよ！皆さんのご来園お待ちしております。

= 仲間にないませんか？ =

葦の会は、公園のバードウォッチングやイベントのサポート、紙芝居の上演、環境保全、機関紙作りなど、チームに分かれ活動をしています。9月30日（土）の説明会では、公園の成り立ちを含めた概要説明、園内見学や実地体験も含め楽しい予定が組まれています。葦の会の紹介枠もありますので是非ご参加下さい。

<編集後記>

今年の夏の暑さには、もう参りました。公園を散歩するのが日課でしたが、暑さで全く歩けていません。でも夜には鈴虫の美しい声を聞き癒されていますよ！早く秋きてね～。（M.F）

木々と木の実と野鳥の話 ④

「人と自然との共生」をめざし開園した公園の淡水池の東側に「どんぐりの森」があります。近所のあじす保育園の園児たちがどんぐりの実を土にまき、水やりして育てたウバメガシの苗木も、今では鳥や動物たちの力を借りて数を増やし公園を代表する樹木へと成長しました。秋にはどんぐりの実をたくさん付け、これを動物や鳥などが好んで食べます。

どんぐりを好んで食べる動物というと、クマやリスが挙げられますが、公園ではノネズミなどがどんぐりを運んで土の中に貯蔵したり、かじりかけが土に覆われたりしたものから芽が出ます。また、まだ人けのない早朝などに、マガモたちが集団で淡水池からあがってきて、道に落ちているどんぐりをぱくぱくと口に入れていているところに遭遇することがよくあるそうです。カモはどんぐりを丸飲みにし、体内で皮ごと消化して栄養分を取り込みます。消化されないどんぐりは口から吐き出されますが、よほど運が良くなければ芽を出すことは難しく、どんぐりにとってはあまりメリットはなさそうです。



みんなのひろば😊

ハエトリグモのジロー



黒っぽく、大きさは5～10ミリくらい。生垣などをピョンピョン飛びながら虫を捕食するハエトリグモ。家の中でも時々見かけますが、小さくて可愛いのでわが家では「ジロー」と呼んで同居を許しています。家にいるダニなどの小さい虫を食べてくれるようです。追いかけると大慌てで跳ねながら逃げますが、ふと立ち止まり、くりくりした目でこちらを見てくることもあります。今まで知らなかったのですが、実は目は8個も付いているそうです！👁️👁️👁️👁️

ハエトリグモについて調べていて、「ハエトリフィルム/Jumping Spider Film」というYouTubeを見つけました。頭に水滴を載せられたハエトリグモのリアクションがユーモラスでかわいらしく、世界中でハエトリグモファンが続出しているとか。興味のある人、見てみて下さい！クモが苦手な人も思わず好きになってしまいそうです(?) 正面の2つの大きな目の横に小さめの目がずらりと並んでいるのもバッチリ分かりますよ… (E.K)



皆さまのご投稿をお待ちしています。ashinokai.kirara@gmail.com までお送りください。